

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191700030		
法人名	医療法人 誠晴會		
事業所名	グループホーム ふるさとの森		
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字糸岐6851-3		
自己評価作成日	平成28年7月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/41/index.php?action_kouhyou_pref_topjiigyosyo_index=true
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年8月3日	外部評価確定日	平成28年9月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・有明海より昇る朝日、多良岳山系に沈む夕日を眺められる、自然豊かで静かな環境です。その中でご利用者様のペースに合わせ、一日をゆっくりと過ごして頂ける環境づくりに努めています。また、本人様の「やってみたい!」「行ってみたい!」と言う要望を会話の中から引きだし、月一回のカラオケボックスまでの外出やイベント食など、楽しみのある毎日を過ごして頂いています。日々の健康管理では、職員の観察力と情報の共有、隣接する老健施設との協力体制により安心出来る環境と、理学療法士・作業療法士による専門的な生活機能へのサポートも整えております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>平成26年8月に開設された事業所は、周囲を果樹園に囲まれ、自然豊かな環境の中に、モダンな建物で木の香りに包まれている。室内は不要な飾りもなく、また収納環境が整いきちんと整理されている。生活感が感じられないほどである。管理者を始め全職員は経営者の「ありきたりのグループホームではなく固定概念に捉われず特徴のあるグループホームを創り上げたい」という思いを託され、実現に向けて理念を掲げ実践している。定期的に行われる運営推進会議などで貴重な意見をいただき、模索しながら、笑顔でゆっくり、ゆったりペースで、思いやりのあるケアに取り組んでいる施設である。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、スタッフで話し合いながら設定したため共有は出来ている。しかしながら日々の業務で流されないよう、気付いた時はその場で再確認し合う様心掛けている。また、会議等でも再確認行っている。	開設時は理念は作成されていなかったが、その後日々のケアを通して全職員と話し合い基本理念・ケア理念が作成され玄関に掲示されている。職員は理念の具体的な姿を意識しながら日頃の支援に臨んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催しに参加したり、ボランティアグループの定期的な訪問を依頼し交流出来るよう努めている。また、かかりつけの病院や美容室、理容室など、継続して利用できる環境を提供している。	地域の自治会に参加し清掃作業なども参加していた。周囲に民家が少なく、住民とのふれあいの機会も少ないため、ボランティアで定期的にコースやエイサーの訪問を受けている。また町の文化祭にも参加し地域との連携を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での発信や利用者の家族、親族には積極的に声掛けを行い、認知症に対する理解や不安軽減に努めている。しかし、地域に対する発信力はまだまだ不足しており、今後の課題。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組みや実績等の報告に対して、積極的なご意見を頂いている。「他に見られない自由な環境が良い」との意見頂き、「決めつけない生活」の大切さを持って活かせるよう努めている。	運営推進会議は、地域の役員をはじめ、市の担当者、家族の参加を得て、2ヶ月に1回確実に行われている。会議では入居状況や活動の報告の他、協力機関の老健施設との連携や特に配慮が必要な利用者についての意見交換がなされる等、有意義な会議となっている。議事録もきちんと記載されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に出席したり、地域包括センターの担当者との連携行い、地域介護の現状や、グループホームに求められる役割等の情報収集行っている。	行政職員は毎回運営推進会議に参加もあり、常に連絡をとり事業所の情報などを共有できている。また2ヶ月に1回地域ケア会議に参加し、行政や地域包括支援センター、他の事業所との協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的にはスタッフを外部研修に参加させている。また、事業所内でも定期的に会議の議題として取り上げ、意識の統一とプロとしての在り方を学んでいる。	身体拘束をしない支援については職員の意識は高く、今までも拘束の事例はない。日中の玄関の施錠はなく、閉塞感もない。外出傾向がある利用者には職員と一緒に出かけるなどして支援している。隣接する老健施設との連携で安全面の協力体制もできている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にはスタッフを外部研修に参加させている。また、事業所内でも定期的に会議の議題として取り上げ、意識の統一とプロとしての在り方を学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、有資格者は外部研修等で学ぶ機会を持っているが、全スタッフが学ぶ機会は少ない。現在必要性が薄く切迫性に欠けている関係もあるが、今後の課題。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に添って、分かりやすい例題をあげながら懇切丁寧に行っている。また、質問に対しては再度分かり易く、納得して頂けるまで説明行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については、介護相談員からの聴き取りがあり報告受けている。家族については運営推進会議時や面会時に積極的に話しかけたり、話しやすい環境や雰囲気作りを心掛けている。頂いた意見については迅速に反映できるように努めている。	相談、苦情の受付体制、外部機関の明示に関しては契約時に説明し玄関にも閲覧できるよう掲示している。また玄関入り口に自由に意見を述べていただけるよう意見箱を設置している。家族とは、日頃から意見を言いやすい関係づくりに努めている。職員の笑顔からは安心感や話しやすさを感じられる。出された意見や、要望は支援に活かされるよう検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年二回の個人面接実施中。また、月二回の会議時にも運営についての話題を上げ、職員から関心を持ち意見が出せる環境に心掛けている。出された意見に対しては反映できるよう努めている。	職員間のコミュニケーションはよく取れており、意見を言いやすい関係が築かれている。管理者は会議に全員が参加できるよう勤務体制も考慮している。出された意見や要望は運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の人事考査により、各自の目標設定やスキルアップなどの聞き取りを行い、向上心を引き出す環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平日頃から自身の目標設定の必要性を伝え、それに沿った研修に積極的に取り組めるよう、研修費の補助など行っている。得意な面を伸ばし、不得意な面を自身で学習する姿勢を評価出来るよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会や地域ケア会議に参加、事例検討会等で意見交換会を通じ、サービスの再確認と共に向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困りごとや不安の聴き取りを十分にを行い、安心感や楽しみの提供が出来る様、とにかく話を聴く事に重点を置き、信頼関係を築けるよう配慮している。特に施設として「出来る事、出来ない事」を明確に伝えられるよう、理解して頂けるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族間の苦労や思いに対しての労い、不安の聴き取りに努める。また、今後の目標や楽しみを提示し前向きになって頂けるよう配慮する。特に面会時に話しかけやすい雰囲気を持つよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族からの聴き取りから、何が一番必要かを見極められるよう、真摯に向き合い心の内を聞き取れる様努めている。そして、その方に合ったサービス内容となる様工夫している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護者」では無く、一緒に生活している故に「一緒に考え、一緒に行動する者」としての関係性となる様、言動に責任を持ち工夫を怠らないよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の少ない家族に対しては毎月のお便りと写真にて、身近に感じて頂けるよう日々の様子が伝わる工夫を凝らしている。また、面会時は日常生活で家族も共にある事を伝えられるよう、話題作りに工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への受診、行きつけの美容室やお菓子屋さんとの交流など、積極的に支援している。	本人がこれまで大事にしてきた関係については、日常会話や家族からの情報を得て、関係継続に努めている。行きつけの美容室に出かけたり、自宅への仏様参りなどを支援し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独感の軽減については、職員が仲介に入る事で会話が成立したり、共通の楽しみを提供する事で繋がりを感じて貰えるよう配慮している。お互いに関わり合い、支え合う環境作りは難しいが、少しでも関心を持って頂けるような取り組みは今後の課題。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時候の挨拶などの一節に一言添える等、関係性が継続している事をさりげなく伝えながら、相談しやすい環境を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族からの聴き取りや生活歴から、その人となりを理解し、希望や意向の把握に努めている。本人から困難な場合は家族からの希望や意向を参考にしている。	入居時の生活歴を含む情報からだけでなく、日々の関わりの中で利用者の心に寄り添い、表情、ちょっとした動作にも気を配りながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の内容から色々な状況を引き出せるよう、話題作り工夫している。思いを受容する事で回想への支援にもなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合った生活ペースを大切にし、決して無理強いはいしない。過介助にならないよう、生活機能の把握と情報の共有に努め、生活機能の維持と生き甲斐の提供に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では、適時のカンファレンス、家族や本人とは担当者会議の場で意見やアイデアを出し合えるよう努めている。そして、その人に合った介護計画となる様努めている。	利用者や家族の意向や課題に応じて、具体的に現状に即した介護計画が作成されている。計画は家族と職員で検討し、よりよいものとなっている。評価や計画の見直しも定期的に行われている。担当者会議には家族も参加されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録も行うが、気づきや発見があれば朝の申し送りで情報の共有を行い、即日で介護計画に反映できるよう活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望を叶えるべく、型に捉われない柔軟な姿勢は理念にも掲げており、常に心掛けている。実際、晩酌の実施中。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店やイベントに出掛けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は支援している。また、かかりつけ医には受診時に日常生活や情報の提供を行いながら信頼関係を築き、緊急時の対応など適切に受けられるよう努めている。	基本的には、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診であるが、協力医療機関での受診が多い。受診には職員が同行し、受診結果は家族にも必ず連絡している。また家族が受診に同行される場合も、情報は事前に主治医に提供し連携はできている。緊急時の体制も整っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	老健施設の看護師との連携を図り、緊急時の適切な処置や対応が受けられる環境を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院との連携を持ち、家族や本人の不安に対する相談が迅速に出来る様努めている。退院後の不安軽減についても、病院や老健施設との連携を持って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、入居時に事業所で出来る範囲を丁寧に説明し理解頂いている。また、病院との連携もスムーズに行くよう情報の提供を心掛けている。	重度化や終末期の対応については、契約時に説明し同意を得ている。まだ開設してからの期間も短く、看取りの事例はないが、健康面など状況の変化があれば、主治医との連携ができる体制は整っており、利用者、家族が安心して過ごせるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練については不十分であり、全ての職員が実践力を身に付けているとは言えない。今後の課題。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年二回、地域の消防団と消防署との訓練実施中。地震に対しての訓練は未実施。	消防計画に基づき年2回夜間を想定した避難訓練が実施されている。その際、消防署や消防団等の参加があり、適切な指導を受け、非常災害時に迅速な対応ができるよう対策に活かしている。また、利用者や家族には避難場所を伝えている。非常食は水のみ備蓄となっているため、今後は食料品の備蓄や災害時の持ち出し等も検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を理解し、適切な声掛けが出来ている。しかし、日々変動されるためまだまだ工夫が必要。	職員は利用者の人としての尊厳の尊重を基盤とし、声かけにも誇りやプライバシーを損ねないように気配りしながら対応している。個人情報についても運営規程にも謳われており管理も行き届いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆったりした時間の中で思いを引き出せるよう工夫している。しかし、自己決定支援については「つい先回り」の声掛けになってしまう場面もあり、個性への理解力が大切。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースは大切に出来ている。しかし、ただ受け入れるばかりが「その人らしい暮らし」なのか、見極める事も大切であり「その人らしさ」の奥深さを苦慮している時期でもある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の化粧も実践している。また、定期的に美容室への支援も行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	飲酒の提供も行っている。食事の下ごしらえや味見、片付けなど、その日の気分にあった手伝いをして貰っている。メニューに関しては、希望食の取り入れなども行っている。	隣接する施設の栄養士による献立が作成され、それを基に事業所独自で地元の食材などを購入し職員が調理を行っている。月2回のイベント時には希望食をとり、カップラーメンやサンドウィッチの要望があり提供したこともあった。おやつもたこ焼きなど利用者と一緒に楽しんで手作りしている。食事を自力で摂取できない利用者には傍に寄り添いゆっくりとしたペースで介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量、形態などは個人に合わせて提供している。また食事時間も本人の希望や生活ペースに合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のセッティングにて能力に応じて、自力や介助などにて対応している。義歯は夜間の消毒実施。必要な方は訪問歯科にて対応されている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握する事で、トイレでの排泄や排泄の自立支援行う。また、自力での交換が出来るよう、職員間の情報の共有と環境整備により実現に向けての工夫を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導により自立に向けた排泄支援を行っている。尿パットや紙パンツの利用から布パンツに移行したり、利用者全員が夜間はポータブルトイレを含めたトイレでの排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自家菜園での野菜をふんだんに使用している。また運動不足による便秘を解消するために、運動の必要性を伝えながら一緒に運動する環境も整え、自然排便を促している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応曜日にて入浴日を設定しているが、本人の希望の聴き取りも忘れずに行い、出来る限り希望時の入浴としている。出来ない時はきちんと理由を説明し信頼関係を築くよう心掛けている。	入浴日の設定はあるが、利用者の希望で毎日でも入浴できる。入浴を拒まれる利用者には無理強いすることなく、言葉かけに工夫したり、時間をずらしたりしながら対応している。浴室も明るく清潔感があふれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本自由。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は管理者が行い、内服薬の変更などは情報共有している。また、特定の薬の目的や副作用等についてもきちんと理解出来る様説明し、内服薬の重要性についての情報の共有行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性に合った楽しみを提供出来るよう、担当者が中心となり支援している。盆栽管理、手芸、草花の観賞、買い物、カラオケボックス等。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見ドライブ、カラオケボックス、道の駅めぐり等の支援実施中。今後も目標として家族を交えて温泉への外出を計画中。	天候や気温を見ながらの近隣散歩は全員で行うよう努めている。ソフトクリームを食べに行ったり月2回のカラオケボックスでのカラオケは楽しみの一つになっている。また要望があれば隣接する事業所の訪問販売での買い物にも出かけている。季節に応じてドライブ等に出かけているが今後はさらに、家族と共に温泉に行くことなども計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの希望や個人希望で、個人で持たれたり、事務所預かりで必要時に手渡し買い物を楽しめるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在電話での支援実施中。出来れば手紙やはがきでのやり取りを実現したい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔感と心地よい環境に配慮している。季節感を味わえるよう季節の花を飾ったり、生活感を感じられるような料理の匂いも感じて貰えるよう声掛けに工夫している。	共用の空間は、落ち着いた色調の中にも日当たりがよく明るい。床下換気が設置されており空気のおよみも感じられない。リビングの畳の間には季節の花が飾られ、広い空間の中で季節感があふれている。ソファ、テーブルなどが設置され利用者は思い思いに過ごしている。居室まで行く廊下も広く、車椅子でもスムーズに移動できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは思い思いの場所で過ごして頂くが、殆ど決まった場所が落ち着かれる様子。時には畳の間で仮眠されたり、スタッフと一緒に喋りされたり、自由に「居場所」を持たれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望される物は自由に置いて頂いている。家族の写真や洋服掛けなども置かれている。	使い慣れたものや馴染みの品など持込の制限は特にない。設置されているチェストの上や壁には家族の写真や、手芸作品などが見受けられ落ち着いてゆっくり過ごせる場所となっている。室内掃除は職員が行っており清潔管理は整っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本や雑誌など自由に見れるよう配慮している。椅子やテーブル、ソファなども自由に動かせるよう日頃から声掛け行う。また、転倒などの危険が無いよう、見守りや配置には十分配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない